

「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって

「理想」を創造する

地元で育てるふるさと教育

11月9日(土)に江府小学校学習発表会を見に行きました。「力を合わせてONE TEAM」輝く姿の江府っ子」をスローガンに、児童たちは学年ごとの発表に一生懸命取り組んでいました。1年生の劇「しんせつせんたい1ネンジャー」は、「今年の3月まで保育園に通っていた子どもたちが、ここまでできるようになるんだ」と感じるくらい、役になりきって演じていました。また、来年中学校に上がる6年生は、最上級生らしい堂々とした演技で、ハプニングがあったにもかかわらず、最後までやり通していました。すべての学年が素晴らしいのですが、紙面の都合で書ききれないのが残念です。

現在、わが町では小中一貫教育とコミュニティ・スクールについての議論が進んでいます。保護者の皆さんに説明するだけでなく、町内4地区での住民説明会も開催したところです。説明会の中では、



▲江府小学校1年生の劇「しんせつせんたい1ネンジャー」

地区の運動会に中学生の参加を促すため部活動との調整をされた話や、先生は数年間で転勤されても、地域の思いを継続的に反映させることができる等、先進地の事例も話をされ理解が進みました。また、町では課題解決型の学習として、昨年度からアントレプレナーシップ・スクールを導入し、中学生議會を成果の発表の場とする等、地域と子どもたちをつなぐ取り組みも進めています。高校生を対象にふるさと教育を進めるための公設塾の創設や、現状のいもこ塾の改善等も含め、地元の子どもたちは地元でしっかりと育てていく体制を作りたいと思います。

「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム(※)活動報告

役場の若手職員が班に分かれ、事務改善について話し合う「小さなカイゼン部活動」もいよいよ大詰めとなりました。11月27日(水)には提案発表のデモンストレーションを行い、それぞれの班の具体的な改善内容のみんなで共有しました。

どの班もバラエティに富んだ発表内容で、中には事務を改善する前と後の差を寸劇で紹介する、というユニークな班もありました。事務改善の目指すものは、もちろん役場内の仕事の効率化ですが、それがひいては公共サービスの向上に住民のみなさんにとってよりよいサービスを提供できるようになることが最大の目標です。

これまでずっと続けてきた業務を変えること、もしくはまったくなかった仕組みを新しく取り入れることには、大きな労力が伴います。中には一朝一夕で



▲寸劇で事務改善の効果を紹介する様子

※「3000人の楽しい町」プロジェクトチームとは・・・有志の20～30歳代の江府町役場職員と、その職員から選出されたリーダーで構成。今年度で4期目を迎え、楽しい町の支障となる様々な課題について課を越えて取り組む。

これまでの活動はこちら



これまでの活動の様子はQRコードを読み取ることでご覧いただけます。